



JICAとカマラさん(右)ら県議会の支援により改修された井戸。水源を得ることで、村の人々の生活は豊かになった



住民から熱烈な歓迎を受ける平林専門家(右から2人目)。「プロジェクトへの住民の期待の大きさを感じました」

ギニアの難民キャンプから06年に帰還したカマラさんも、現在、カンビア県議会の委員として積極的に地域開発に携わる。「JICAの支援は、他の国とは違って参加型のボトムアップ方式。私たちと共に奔走してくれることに感謝しています」。08年、シエラレオネはUNHCRにより「難民発生国から卒業」と認定。復興から平和の定着に向けて、さらなる開発に向

けて歩み始める段階にまで来ている。「コミュニティの中には、かつてゲリラ兵としてこの地域を攻撃した人たちもいます。しかし今は、被害者と加害者が共に前を向いて進んでいかなければなりません」とカマラさん。今後は、プロジェクトの活動を通じて得た教訓や提言を「県開発ハンドブック」としてまとめ、全国に普及できる地域開発モデル作りを目指していく。

JICAも彼らの能力を存分に引き出すべく、現場で共に汗を流していく決意だ。

自国を離れていた人々のほとんどは、内戦後、故郷への帰還を果たした。再会を喜ぶ姿があらここで見られる © UNHCR/E Kanelstein

**住民主体でボトムアップの地域開発を**

JICAも紛争後の復興を支援すべく、05年に首都フリータウンにフィールドオフィスを開設。内戦により荒廃したコミュニティに対して、教育、農業、保健、水、電力など、住民の生活に直結する分野を中心に協力を実施してきた。

09年からは、国内でも特に貧しい北部で「カンビア県地域開発能力向上プロジェクト」をスタート。04年にシエラレオネ政府が施行した地方自治法に則り、地方行政(県議会)とコミュニティが連携して問題解決を進められるよう、各組織・人材の能力強化に取り組んでいる。国を建て直すのは地方行政と住民自身の力。

JICAはこうした理念の下、県議会とコミュニティ代表が中心となって地域のニーズを的確に抽出し、井戸、学校、農道などのコミュニティインフラの改善に必要な一連のプロセスを支援している。「何を行うにも、県議会から住民への説明責任を怠らないように助言することが重要です」と、プロジェクトマネージャーを務



と、200万人以上にも及んだという。そして2002年、大統領による内戦終結宣言により、国内はひとまず平穏を取り戻した。そして、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)や世界銀行、各国のNGOなどの支援を受けながら、人々は故郷に戻り始め、ようやく国を挙げた復興が始まった。

09年からは、国内でも特に貧しい北部で「カンビア県地域開発能力向上プロジェクト」をスタート。04年にシエラレオネ政府が施行した地方自治法に則り、地方行政(県議会)とコミュニティが連携して問題解決を進められるよう、各組織・人材の能力強化に取り組んでいる。国を建て直すのは地方行政と住民自身の力。

める平林淳利：JICA専門家は強調する。ある日、建設中の市場の倉庫が、地元の若者グループに一部破壊されたことがあった。「公的な土地に、勝手に何かを建築している」と勘違いしたようです。県議会は住民代表と話し合いの場を持って状況を説明。壊された箇所をどのように修復するかについても協議した。結果、県議会からのローンで修復費を捻出し、倉庫完成後の収益から返済することが決定された。「JICAから一定の予算以上は提供しない。限られた資源の中で自分たちで解決策を見いだす道筋を開くサポートをするのが、私たちの仕事だ」と思っています」と平林さんは話す。

**内戦により母国を追われた日**

「世界で最も貧しい国」。そう表現される国が、アフリカ大陸の西部にある。シエラレオネ。広大な大西洋を望むこの国では、いまだ国民の約6割が1日平均1・25ドル以下の生活を送る。

ダイヤモンドや金、カカオやコーヒーなど、貴重な資源には恵まれている。しかし1991年から11年間続いた内戦が、こ

の国の発展に大きな影を落とした。政府軍と反政府軍との対立により、昼夜繰り返される戦闘。ゲリラ兵の襲撃に人々は皆、逃げまどった。自らの命を守るために故郷を離れ、近隣の国や地域への避難を余儀なくされた者も少なくない。「あの日の惨劇が忘れられない」

最も激しい戦禍を浴びた地域の一つ、北部カンビア県に住む男性、ソリエ・イブラヒム・カマラさん(50)は、当時をこう振

り返る。92年のある日、反政府軍のゲリラ兵に仕事場のある建物を取り囲まれ、銃が乱射され、手りゅう弾が投げ付けられた。「突然のことで町全体がパニック状態でした。着の身着のまま、家族もバラバラにたどり着いた先はギニア国境付近の難民キャンプ。「まずは家族を探し、住むためのテントを張り、わずかの食料で生き延びるのがやっとでした」。当時、ギニアやリベリアの難民キャンプで生活を送った人の数は、国内避難民を合わせる



シエラレオネ  
from **SIERRA LEONE**

**地域の手を  
国の復興の糧に**

1991年から11年間続いた内戦の影響により、多くの人々が近隣の国・地域への避難を強いられたシエラレオネ。内戦が終息し、多くの人々が故郷への帰還を果たした現在、JICAはコミュニティ主体の復興支援を進めている。



村人たちを集め、コミュニティ代表者がワークショップを実施。炎天下にもかかわらず、参加者は長時間にわたり真剣に議論する